

序論「北の想像力」の可能性

岡和田晃

13

- 一、『北海道文学』の危機 14
- 二、SFという視点の導入 16
- 三、『北海道文学』と『北海道SF』 18
- 四、グローバルバリエーションと「北の想像力」 20
- 五、本書の内容について 22

第1部「北の想像力」という空間

35

迷宮としての北海道——安部公房「榎本武揚」から清水博子「ぐずべり」へ……

田中里尚

36

- 一、北海道の迷宮性 36
- 二、公房、根釧原野に想像力を貫かれる 38
- 三、北海道／根釧原野／榎本武揚 42
- 四、一九六八年と安部のSF論 46
- 五、安部公房から清水博子へ 52
- 六、「別の時間」としての「亜寒帯」 56
- 七、褶曲する歴史と語り 60
- 八、迷宮と対峙すること、浮遊する「約束」 66

「氷原」の彼方へ——『太陽の王子 ホルスの大冒険』『海燕』『自我系の暗黒めぐる銀河の魚』

宮野由梨香

77

- 一、はじめに 77
- 二、現生人類と「氷原仮説」 81
- 三、『太陽の王子 ホルスの大冒険』 86
- 四、『氷原仮説』と人口爆発 91
- 五、『海燕』 97
- 六、『自我系の暗黒めぐる銀河の魚』 104
- 七、氷原の彼方へ 110

北方幻想——戦後空間における「北」と「南」

倉数 茂

118

- 一、はじめに 118
- 二、南方幻想 120
- 三、「陸」から「海」へ 123
- 四、北方イメージ 126
- 五、ポスト戦後の北方 134
- 六、終わりに 137

北と垂直をめぐる——吉田一穂

石和義之

140

- 一、北の歌 140
- 二、吉田一穂と田村隆一における「母」 141
- 三、「荒地」と「緑地」 143
- 四、垂直性の二つの次元——沈黙（擬視）と雄弁（運動） 147
- 五、私自身であろうとする衝動 158
- 六、北の歌ふたたび——享楽としての極北 162

第2部「北の想像力」とSF史

177

第51回日本SF大会 (Aricon2012)「北海道SF大全」パネル再録 (二〇一二年七月八日)

178

- …… 巽孝之×小谷真理×松本寛大×増田まもる×岡和田晃 ……
- 「北海道SF大全」へ至る道 178
- なぜ北海道はSF作家の宝庫なのか？ 180
- 初期荒巻義雄作品の脱地域性 180
- 「SFレビュー」川又千秋著「人形都市」 184
- 川又千秋とブラッドベリ——フロンティア・スピリッツ 185
- SFに地域性を！ 186
- 《北海道SF》とスペキュレイティブ・フィクション 187
- すべては「東京SF化計画」から始まった 188
- 『センコロール』の魅力 189
- 『センコロール』と札幌の記号性 190
- 『熊嵐』が描く恐怖 192
- 「リアル」をつかむ補助線として 194
- 映画「オズの魔法使」と「神の国」としてのアメリカ 195
- Return to Ozと「ディストピア・アメリカ」 196
- 「想像力」の可能性を信じて 198
- 「魔の国アンヌビウカ」をめぐる背景 200
- 改めて「近代」が何かを考える 202

北海道SFファンダム史序論

三浦祐嗣

208

- 一、SFファンダムとは何か 208
- 二、日本のSFファンダム 211
- 三、「コア」創刊と北海道ファンダムの誕生 215
- 四、青少年ファンダムの成長 219
- 五、イスクリーチャリと「EZOCON」 222
- 六、新グループとファンダムの発展 226
- 七、ファンダムの多極化と「EZOCON2」 230
- 八、特別展「幻文明の旅」から「Aricon2012」まで 234
- 九、まとめに代えて 238

- 一、はじめに 243
- 二、荒卷義雄の〈原体験〉 244
- 三、荒卷義雄と戦争 245
- 四、荒卷義雄と〈SF〉 246
- 五、初期荒卷SFの再評価 248
- 六、一九七二年の偶然 250
- 七、荒卷SFにおける〈脱領土化〉の意義 253
- 八、リアリズム文学の「限界」 254
- 九、術としてのSF 255
- 一〇、〈術〉——〈類推〉——〈万物照応〉 256
- 一一、「白き日旅立てば不死」の〈ノマド〉的解釈 257
- 一二、荒卷義雄の「ヴィジョン高速記述法」 259
- 一三、アンドレ・ブルトンの「自動記述法」 260
- 一四、ポードレールのポー解釈 261
- 一五、〈物語る脳〉とは何か 262

第3部 「北の想像力」と科学 267

小説製造機械が紡ぐ数学的《構造》の夢について

- 《北海道SF》としての円城塔試論……………渡邊利道 268
- 一、世界文学について 268
- 二、北海道文学について 272
- 三、数学について 279
- 四、見ることに ついて 293

わが赴くは北の大地——《北海道SF》としての山田正紀の再読……………磯部剛喜 304

- 一、神話の伝承者 304
- 二、北海道の神秘的ヴィジョン 310
- 三、想像宇宙の地形学的な解剖 314
- 四、神話の伝承者再び 323

病というファースト・コンタクト——石黒達昌「人喰い病」論……………高槻真樹 328

- 一、病と人 328
- 二、地誌から理解する北海道 335
- 三、病から見た北海道 340
- 四、病の中の思索 344
- 五、虚構の鏡 352

第4部 「北の想像力」と幻想 357

心優しき叛逆者たち——佐々木謙の軸の位置……………忍澤 勉 358

- 一、価値観、あるいはまなざし 358
- 二、作品の舞台としての北海道 361
- 三、生きる場としての北海道 363
- 四、榎本とアイヌ、そして西部劇 366
- 五、南に向かう想像力のベクトル 370
- 六、非日常的な平凡な日常 372
- 七、「死の色」の封印に閉じ込めたこと 373
- 八、「白い殺戮者」を殺した者 378
- 九、「牙のある時間」を過ごした者 381
- 一〇、心優しき叛逆者たち 387

朝松健『肝盗村鬼譚』論——「窓」の向こう側の世界……………松本寛大 396

- 一、はじめに 396
- 二、「怪奇」への憧憬 399
- 三、「枠組みの継承」と、そこからはみ出すもの 405
- 四、想像力の獣 416
- 五、「こわい考え」を育んだ故郷 422
- 六、おわりに 431

SFあるいは幻想文学としてのアイヌ口承文学……………丹菊逸治 447

- 一、はじめに 445
- 二、「妖精物語」としてのアイヌの昔話 447
- 三、アイヌの叙事詩「ユカラ」 448
- 四、超自然現象の源としてのカムイ 449
- 五、SFとしての叙事詩 450
- 六、「カムイ神学」としての叙事詩 452
- 七、カムイユカラ（神謡）の幻想性 463
- 八、「語られる文学」と「書かれる文学」 460
- 九、北方オリエンタリズムの不可能性 462

第5部 「北の想像力」とリアリズム 473

裏切り者と英雄のテーマ——鶴田知也「コシヤメイン記」とその後……………東條慎生 474

一、鶴田知也と北海道 474 二、アイヌが見返す時 477 三、裏切られた英雄 482
四、「熊」を打ち倒すまで 494 五、鶴田知也が経験する近代 500

武田泰淳『ひかりごけ』の罪の論理

横道仁志

515

一、はじめに 515 二、「ひかりごけ」を読むにあたっての心構え 519
三、「我慢」のふたつの態度 527 四、罪の論理 537 五、『ひかりごけ』とアイヌ 551
六、おわりに 救いの可能性について 562

「辺境」という発火源——向井豊昭と新冠御料牧場

岡和田晃

571

一、「アイヌ」をめぐる「状況」のなかで 571 二、「アイヌ」を書くということ 575
三、「魔術的リアリズム」の原点 577 四、発見された「御料牧場」 580
五、「御料牧場」と「アイヌ」の子ども 585 六、「アイヌ共和国」はどこにあるのか？ 592
七、強制移住へのベウタンゲ 602 八、御料牧場、近代の縮図 609

第6部「北の想像力」と海外／メディア

629

キヤサリン・M・ヴァレンテ「静かに、そして迅速に」

橋本輝幸

630

フィリップ・K・ディック『いたずらの問題』

藤元登四郎

635

川又千秋「魚」

岡和田晃

647

侯孝賢監督『ミレニアム・マンボ』

渡邊利道

659

伊福部昭作・編曲『SF交響ファンタジー』

石和義之

664

第7部「北の想像力」を俯瞰する

671

「北の想像力」を考えるためのブックガイド

672

はじめに 672 作者名「あ行」 ほかいど（書治静哉） 672 エリ・エリレマサバクタニ（青山真治） 673
肝盜村鬼譚（朝松健） 674 魔火行喚（朝松健） 674 忘の血族（朝松健） 675 旋風伝レラリシウ（朝松健） 675
中空知防衛軍（あさりよしとお） 676 板本武揚（安部公房） 676 スフィンクスは笑う（安部ヨリミ） 677
光を背負う男（荒木巍） 678 空白の十字架（荒巻義雄） 678 アツツの幽霊（荒巻義雄） 679
白き日旅立てば不死（荒巻義雄） 679 時の葦舟（荒巻義雄） 680 カインの末裔（有島武郎） 681 冬至草（石黒達昌） 683
折れた魔劍（ポール・アンダーソン） 681 生存者ゼロ（安生正） 682 静かな大地（池澤夏樹） 683 人喰い病（石黒達昌） 684
平成3年5月2日、後天性免疫不全症候群にて急逝された明寺伸彦博士並びに（石黒達昌） 684
望郷と海（石原吉郎） 685 街と村（伊藤整） 685 鳴海仙吉（伊藤整） 686 プロメテウスの涙（乾ルカ） 687
四千万歩の男（井上ひさし） 687 北へ深夜特急（井上雅彦） 688 セデック・パレ（ウエイ・ダーション） 688
原始林の野獣と共に（上田廣） 689 コシヤメインの末裔（上西晴治） 690 先住民族の「近代史」（上村英明） 690
センコロール（宇木敦哉） 691 板本武揚シベリア日記（板本武揚） 692 四角い円（円城塔） 692
愉快な鐵工場（大城のぼる） 693 小笠原克 北方文芸編集長の仕事（小笠原克） 693 《日本》へ架ける橋（小笠原克） 694
小熊秀雄詩集（小熊秀雄） 696 詩人 逸見直吉（尾崎寿一郎） 695
作者名「か行」 ロレンソンの末裔（開高健） 695 氷（アンナ・カヴァン） 696 ガメラ2 レギオン襲来（金子修介） 697
孤状の島々——ソクローフとネフスキー（金子遊） 697 日本植民地児童文学史稿（上笙一郎） 698
評伝 鷲巣繁男（神谷光信） 698
《緑人社」の青春——早川三代治宛ての木田金次郎・高田紅葉書簡で綴る大正期芸術運動の軌跡（亀井志乃） 699
感性の変革（亀井秀雄） 700 アイヌの民具（菅野茂） 700 日本近代文学の起源（柄谷行） 701 北夷風人（河崎秋子） 701
武田泰淳伝（西政明） 702 夢意識の時代 S.F.論集（川又千秋） 702 異郷の昭和文学「満州」と近代日本（川村透） 703
「記憶の場」のエージェンツ 「アイヌ研究住職」と人文神オキクルミの（昭和史）（木名瀬高嗣） 704
アカシヤの大連（清岡卓行） 704 赤坂風説考（工藤平助） 705 ニンゲル（倉本聰） 705
初音ミク（クリフтон・フューチャー・メディア） 706 姉妹（群柳二葉） 707
「ひかりごけ」事件 難破船長食入犯罪の真相（合田一進） 708 夢幻界 オンデアイヌ（児島冬樹） 708
北極シテイーの反乱（小隅黎） 709 大地の冬なまたち（後藤竜二） 709 ソーダ村のソーダさん（湖西晶） 710
蟹工船（小林多喜二） 710
作者名「さ行」 地下大陸（さいとう・たかを） 711

柳瀬尚紀訳『フイネガンズ・ウエイク〜IV』のアイヌ語地名について(齋藤) 711
 白い殺戮者(佐々木謙) 712 動物のお医者さん(佐々木倫子) 713 幻視する(アイヌ(佐々木昌雄) 713
 だれも知らない小さな国(佐藤さとる) 714 デンテラ(佐藤友哉) 715 海炭市叙景(佐藤泰志) 715
 文化を翻訳する知里真志保のアイヌ神話における創造(佐藤IIロスベアグ・ナナ) 716 一名の賦(澤井繁史) 717
 天使の狂詩曲(澤井繁史) 717 まつろはぬもの——松岡洋右の密偵となったアイヌの半生(シクルンイ) 718
 くずべり(清水博子) 719 海と陸と世界史的「孝祭」(カール・シユミット) 719 空の向こう、約束の場所(新海誠) 720
 発明皇帝の遺産(新戸雅章) 721 競馬の終わりの(杉山俊彦) 721
 となりに脱走兵がいた時代——ジャテック、ある市民運動の記録(関谷滋・坂元良江) 722
 コンタクト(ロバート・ゼメクス) 722
 作者名「たけ」 根拠開拓と移住研究(鷹田和喜三) 723 視力力疾走(高橋揆一郎) 724
 太陽の王子 ホルスの大冒険(高畑勲) 724 ネガティブハッピー・チェーンソーエッチ(滝本竜彦) 725
 ひかりごけ(武田泰淳) 725 ひとり百物語 怪談実話集(立原透耶) 726
 ゲンターヌ ある北方少数民族のドラマ(田中了、D・ゲンターヌ) 726
 アイヌ語門——とくに地名研究者のために(知里真志保) 727 アイヌ神話集(知里幸恵) 728 密室キングダム(柄刀二) 728
 土方歳三、参る！——幻説五稜郭(辻真先) 729 歌と饒舌の戦記(筒井康隆) 729 村の創業(都築會三) 730
 日本ふるさと沈没(鶴田謙二・吾妻ひでお・唐沢なをき・あさりよしとお他) 731
 コシヤメイン記・ペロニカ物語(鶴田知也) 731 鶴田知也作品集(鶴田知也) 731 シュマリ(手塚治虫) 732
 Hokkaido Green(エイタン・ドイル) 734 北方の夢(豊田有恒) 734 北方の開拓者(豊田穰) 735
 作者名「な行」 虚無への供物(中井英夫) 734 アイヌの物語世界(中川裕ほか) 735
 岩波講座 日本文学史 第17巻 日本文学2・アイヌ文学(中川裕ほか) 736
 太陽叩き(中沢茂) 736 榎本武揚シベリヤ外伝(中園英助) 737 プリユールへの旅(中野孝次) 738 海燕(中野美代子) 738
 ゼノンの時計(中野美代子) 739 北方論北緯四十度圏の思想(中野美代子) 739 幻の北海道共和国(夏堀正元) 740
 マリモ国道241(夏堀正元) 740 波津尚子その夢の続き——波津尚子短編小説集(波津尚子) 741
 大風呂敷と蜘蛛の糸(野尻抱介) 741
 作者名「は行」 完訳 日本興地紀行3 北海道・アイヌの世界(イザベラ・バード) 742 北の時代(秦恒平) 743
 コタンに死す——鳩沢美夫小説集(鳩沢美夫) 743 風の吹きわたる道を歩いて——現代社会運動私史(花崎皋平) 744
 宙音(林美豚子) 744 記憶汚染(林譲治) 745 進化の設計者(林譲治) 746 大東亜の矛(林譲治) 746 満月(原田康子) 747
 昭和詩の発生(樋口寛) 747 地底歌国(久生十蘭) 748 魔の国アンスピウカ(久間十義) 748 流浪の手記(深沢七郎) 749
 アイヌ——神々と生きる人々(藤村久和) 749 蝦夷地別件(船戸与一) 750 石狩平野(船山馨) 751
 ヤマタイカ(星野之宣) 751 北海道連鎖殺人——オホーツクに消ゆ(堀井雄二) 752 牧逸馬の世界怪奇実話(牧逸馬) 753
 北海道化石としての時刻表(征谷洋平) 753 砲撃のあとで(二本亭) 754

作者名「ま行」 喪われた都市の記録(光瀬龍) 754 風の又三郎(宮澤賢治) 755
 風に乗って来るコロポックル(宮本百合子) 755 人間同志に候え(三好丈夫) 756 怪道をゆく(向井豊昭) 757
 北海道文学を掘る(向井豊昭) 757 羊をめぐる冒険(村上春樹) 758 希望の国のエクソダス(村上龍) 759
 辺境から眺めるアイヌが経験する近代(テッサ・モーリスII鈴木) 759 北方空間の思想(森蔵) 760
 定信公始末(森真沙子) 760
 作者名「や行」 王道の狗(安彦良和) 761 虹色のトロツキー(安彦良和) 762 カムイの剣(矢野徹) 762
 妖精王(山岸凉子) 763 増補版エキノコックス——その正体と対策(山下次郎、神谷正史) 764
 アンモナイトのささやきを聞いた(山田勇男) 764 物体X(山田正紀) 764
 天動説(一) 江戸幻想編、天動説(二) 蝦夷伝奇編(山田正紀) 765 影の艦隊(山田正紀) 766
 自我系の暗黒めぐる銀河の魚(山田ミネコ) 767 陰翳の家(夢枕獯) 767
 吉田一穂詩集(吉田一穂) 767 漂風(吉村昭) 768 脱ニッポン記——反照する精神のトボス(米田綱路) 769
 作者名「ら行」 サハリンへの旅(李恢成) 769
 作者名「わ行」 なぜ、北海道はミステリー作家の宝庫なのか?(鷺田小彌太・井上美香) 770 風土のなかの文学(和田謹吾) 771

「北の想像力」関連地図……………772

編集後記 774

執筆者略歴 777

索引 1、